

かしわ ちょう  
膳夫町

## 膳夫氏は天皇の料理人

古代に天皇の食事を用意した専属料理人、膳夫（かしわで）氏の一帯に住んでいました。一族の長（おさ）を膳臣（かしわでのおみ）と呼びました。古くは、食器の代わりにカシワの木の葉を使っていたことから、これらの呼び名が付いたようです。

「膳夫寺跡」が同町中央南寄りに建つ、保寿院（膳夫山・保持院）の境内に残っています。白鳳時代（七世紀後半）の瓦（かわら）や柱穴のある礎石が、ここから出土しています。聖徳太子妃の膳夫姫（ひめ）が建てたという、膳夫寺の古い伝承を裏付けるものです。

寺の鎮守だったと伝わる三柱（みばしら）神社が、寺跡に接して鎮座しています。祭神が三宝荒神（さんぼうこうじん）の火の神・かまどの神などであり、料理をつかさどった膳夫氏とこの地域の古いかかわりを思わせます。

江戸時代に大和を旅した国学者の本居宣長も、この神社のことを「かしはで村のかたはらに、森のあるを問へば、荒神のやしろという」と、旅日記に書き残しています。